

平成24年5月18日

独立行政法人
郵便貯金・簡易生命保険管理機構
理事長 殿

(団体名) アジア保育教育交流推進実行委員会
(代表者役職名) 代 表
(氏 名 [登録印]) 森 み どり ㊞

平成22年度国際ボランティア貯金寄附金による配分事業の完了報告書

(機構第3877号(H23.3.11)関連)

標記について、下記のとおり報告します。

記

1 配分事業名 (対象国・地域)

保育スタッフ研修及び親子保育研修 (タイ)

2 配分額

配分額	<u>3, 135 千円</u>
(内訳) 受領額	<u>3, 135 千円</u>
未受領額	<u>0 千円</u>

3 配分事業の総費用額等

総費用額	<u>3, 361, 105 円</u>
(内訳) 自己資金額 (総費用額 - (受領額 - 返還予定額))	<u>575, 603 円</u>
自己資金額の割合 (自己資金額 ÷ 総費用額 × 100)	<u>17.1 %</u>

4 配分事業の実施状況及び効果

(1) 第1回公開保育研修会事前調整

公開保育研修事業の実施にかかる実施箇所の選定や研修内容の協議、テキストの作成準備のために次のとおりスタッフを派遣しました。

スタッフ 松尾純代、稲葉貞夫

5月20日(金)～22日(日)

実施箇所についての選定の協議、決定。

実施予定箇所の訪問

2011年度事業にかかるテキスト作成の準備

(2) 第1回公開保育研修事業(6月21日～27日)

派遣した日本人専門家・スタッフ

橋本 暢子 (こども情報研究センター・保育士)

徳永 和美 (こども情報研究センター・保育士)

森中 智也 (保育士)

松尾 純代 (大阪マイペンライ 帝塚山大学教員・保育士)

① 6月21日

- ・スラム視察
- ・保育園・図書館で子どもの姿に学ぶ

② 6月22日(水)

- ・公開保育実施か所についてオリエンテーション
- ・シーカアジア財団のスタッフとともに公開保育シュミレーション
- ・準備物の用意

③ 公開保育(6月23日)

・プラサートシン保育園(6月23日午前中) 担当講師 橋本暢子

公開保育参加者(こども4～5歳 60人、保育者6人)

活動内容：《・頭・肩・膝・ポン ・アヒルのダンス(CD) ・新聞紙で遊ぶ ・ボウリング ・パーボルーンであそぶ ・ジェンカ》

意見交流研修会参加者(外部見学者14人、当該保育園 2人 園長1人)

・クロムガン幼稚園(6月23日午後) 担当講師 橋本暢子

公開保育参加者(5歳児 172人、保育者 12人)

活動内容《・頭・肩・膝・ポン ・アヒルのダンス ・新聞紙で遊ぶ ・パーボルーン》

意見交流研修会参加者(外部見学者：13人、当該幼稚園：6人)

④ 公開保育(6月24日)

・ワットターカム幼稚園(6月24日午前) 担当講師：橋本暢子

公開保育参加者(4歳児 110人、保育者：6人)

活動内容：3クラスの子どもを4色のグループに分ける

《・頭・肩・膝・ポン ・アヒルのダンス ・新聞紙で遊ぶ ・紙でっぽうづくり ・オセロ ・

パーボールン ・お土産に紙風船》

意見交流研修会参加者（外部見学者 22人、当該保育所：5人）

⑤公開保育（6月25日）

セータムクローマ二保育園（6月25日午前） 担当講師：徳永和美

公開保育参加者（2歳～5歳親子 28組）

活動内容《・頭・肩・膝・ポン ・アヒルのダンス（CD）・バスに乗って（CD）・なべなべそこぬけ ・新聞紙遊び ・ヤクルトでマラカスづくり》

意見交流研修会参加者（外部見学者 25人（行政担当者3人含む）、当該保育所：6人）

ラートパタナー保育園（6月25日午後） 担当講師：森中智也

公開保育参加者（2歳～小学生親子25組）

活動内容《・手品 ・しあわせなら手をたたこう ・手作り蒔絵「おおきなかぶ」 ・日本橋こちょこちょ ・なべなべそこぬけ ・「よろしくね」（CD） ・布で遊ぼう 2つにわかれて、シーツ遊び ・紙トンボ作り》

意見交流研修会参加者（外部見学者 28人、当該保育所 4人）

⑥公開保育（6月26日）

バーンテープ保育園（6月26日（日）午前） A 担当講師：森中智也、B 担当講師：徳永和美

Aが保育園の親子、Bは就学児の親子と設定し、人数も部屋の広さから15組と10組としていたが、そのように分けること困難で、親子の集まり状況を見ながら入室を誘導し、結果15組と14組となった。

A活動

公開保育参加者（2歳～小学生親子15組）

活動内容《・「しあわせなら手をたたこう ・手作り蒔絵「大きなかぶ」 ・「よろしくね」CD ・布遊び ・紙トンボ作り》

B活動

公開保育参加者（2歳～小学生親子14組）

活動内容《・「アヒルのダンス」CD ・「バスに乗って」CD ・「な・な・なむでん」 ・新聞紙遊び 走り玉入れ ・牛乳パックモクモク人形づくり》

意見交流研修会（外部保育者 20人、当該保育所：5人）

⑦6月27日

1 総括会議

- ・公開保育開催場所の選考、見学申し込みの状況について
- ・「2月実施で総括した改善点をどう生かせたか」
- ・活動内容について
- ・講師としてかかわって
- ・今後に向けて

2 次回開催について

日程を確認し、準備を進めることとした。次回については一連の研修事業の最終回として、現

地の協力団体から公開保育のプログラムの提示を求め、それに沿った準備を進めることとする。

3 テキスト作成準備

これまでの公開保育で使用した資料を整理し、テキストの形にまとめていく。

(3) 第2回公開保育研修事業事前調整

公開保育研修事業の実施にかかる実施箇所の選定や研修内容の協議、テキストの作成準備のために次のとおりスタッフを派遣しました。

スタッフ 松尾純代、稲葉貞夫、中島美智子（自己資金で派遣）

1 2月22日（木）～ 24日（土）

シーカーアジア財団と実施箇所の選定協議

公開保育実施箇所のニーズを踏まえた保育内容の検討

公開保育応募保育園・幼稚園・図書館等の視察

「保育実践テキスト」の作成準備

パネルディスカッションの実施内容の協議

(4) 第2回公開保育研修事業（2月14日～20日）

派遣した日本人専門家・スタッフ

具志堅敬子（わかくさ保育園・保育士）

工藤みゆき（こども情報研究センター・保育士）

藤田 峰生（大阪市保育士）

松尾 純代（大阪マイペンライ 帝塚山大学教員・保育士）

① 2月14日

- ・スラム視察
- ・保育園・図書館で子どもの姿に学ぶ

② 2月15日

- ・シーカーアジア財団・大阪マイペンライ講師打ち合わせ
- ・シーカーアジア財団のスタッフとともに公開保育活動シュミレーション
- ・準備物の用意

③ 公開保育（2月16日）

チュワパーン地区中保育園（2月16日午前） 担当講師：具志堅敬子、ムアイ

公開保育参加者（3～5歳55人、保育者3人）

活動内容《手品、牛乳パックのこま、新聞紙・ビニール袋でトンネルづくり、2台のトンネルでリレー、色鬼ごっこ》

意見交流研修会（進行：ギップ）参加者（外部見学者23人、青年海外協力会スタッフ1人と通訳1人）

障がい児のための財団（2月16日午後） 担当講師：工藤みゆき、ギップ

公開保育参加者（3歳から13歳の子どもと保護者8組（子ども8人・おとな9人）、施設スタッフ4人）

活動内容《絵本「ぞうのボタン」、色水の手品、ふれあいあそび 『かしてかして』、「ヨーンビヨンマンづくり」、「ポリ袋でトーテンポール」》

意見交流研修会（進行：ギップ）参加者（外部見学者11人≪施設より人数制限あり）、青年海外協力会スタッフ1人と通訳1人）

④公開保育（2月17日）

ガーリミー保育園（2月17日午前） 担当講師：具志堅敬子、ムアイ

公開保育参加者（3歳児47人、保育者4人）

活動内容≪・自己紹介・手品、・牛乳パックこま、しっぽとり、シャボン玉遊び≫

意見交流研修会（進行：プラー）参加者（外部見学者14人）

バーンスー保育園（17日午後） 担当講師：藤田峰生、ソムサック

公開保育参加者（対象：4・5歳23人、3歳児で入りたい子どもが数、（降所の時間帯で途中帰る子どもあり、先生：4人）

活動内容≪手品（色水）、・自己紹介・手遊び♪手をたたこう♪、・手遊び（ばなな・マンゴー・ドリアン）、・手裏剣忍者（忍者の手裏剣に当たらないよう、体をかわして遊ぶ）ゲーム、タイ版（猫とネズミ マムアン：マンゴ）、氷鬼≫

意見交流研修会（進行：ムアイ）参加者（外部見学者45人、当該保育園園長）

⑤公開保育（2月18日）

パークポー寺幼稚園（小中併設幼稚園）（18日午前） 担当講師：藤田峰生、ソムサック

公開保育参加者（対象：3歳・4歳・5歳各学年10組の親子＝計30組、先生：3人、校長・教頭など見学参加）

活動内容≪（手作りおもちゃ・ヘリコプター）、自己紹介・手遊び♪手をたたこう♪、・手遊び（ばなな・マンゴー・ドリアン、・しゅりけん忍者、・タイ版（猫とネズミ）座って・立って、・おもちゃ作り・ヘリコプター）

意見交流研修会（進行：ムアイ）参加者（外部見学者21人）

バーンヤープレー区保育園（18日午後） 担当講師：工藤みゆき、プラー

公開保育参加者（3歳・4歳・5歳各学年5組ずつ親子15組、保育者2人）

活動内容≪手品（色水）、ふれあい遊び（パータンコウ）、「でんしゃ」のであそび、手作りおもちゃ「風車」、・大きなトーテンポール≫

意見交流研修会（進行：ソムサック）参加者（当該保育園運営委員3人、同地域保育園園長7人、外部見学者20人）

⑥2月19日

1 総括会議

- ・第2回研修事業を振り返って
- ・テキスト作成準備

これまでの公開保育で使用した資料を整理し、テキストの形にまとめていく

- ・パネルディスカッションの打ち合わせ

⑦2月20日（10時～12時）

パネルディスカッション

テーマ＝子どもの育ちのために力を合わせよう ～想像力をはぐくむ教材について考える～

参加者 79人

パネラー：ニック さん（マーシー財団社会福祉士＝2011年2月公開保育実施保育園園長）

ガイ さん (障害児生活施設・土日子どもかかわりボランティア、昨年度公開保育実施施設)

ブック さん (シーカーアジア財団事務局次長)

松尾純代 (大阪マイペンライ)

ファシリテーター: ジョウ さん (アートセラピー活動家、2010年9月にチュラロンコン病院で実施した公開保育研修のコーディネーター)

援助事業の目標、事業計画の評価・反省			
	内 容	達 成 状 況	評 価 ・ 反 省
援助事業の目標	<p>・子どもを対象とした遊びの公開保育(6ヶ所)、保護者と子ども(6ヶ所)を対象にした公開保育を現地の保育園・図書館で実施する。また、これらの保育園・図書館(合計12ヶ所)で、公開保育終了後に保育園・図書館スタッフ(約10人×12ヶ所)を対象に保育実践研修会・意見交流会を実施する。</p> <p>・研修事業のまとめとして、パネルディスカッションを開催する。</p>	<p>1 第1回公開保育研修事業事前調整 第1回研修事業の実施に向けた事前協議のために、5月20日(金)～22日(日)にスタッフを派遣し、現地協力団体との協議等を実施した。</p> <p>2 第1回公開保育研修および意見交流研修会 第1回公開保育研修事業を、6月21日～27日、バンコクおよびその周辺県で実施した。</p> <p>3 第2回公開保育研修事業事前調整 第2回研修事業の実施に向けた事前協議のために、12月21日～23日にスタッフを派遣し、現地協力団体との協議等を実施した。</p> <p>4 第2回公開保育研修および意見交流研修会 第2回公開保育研修事業を、2月14日～20日、バンコクおよびその周辺県で実施した。</p> <p>5 パネルディスカッション 研修事業のまとめとして、2月20日、バンコクでパネルディスカッションを開催した。</p>	<p>第1回研修については、予定通り実施することができた。</p> <p>第2回研修についてはほぼ予定通り実施することができた。</p> <p>パネルディスカッションに日程についても予定通り実施することができた。</p>

	<p>・「手作りおもちゃ、集団遊び」テキストを作成する。</p>	<p>6 テキストの作成 この間の研修事業で実践した保育内容を集約した「保育テキスト」を作成した。</p>	
事業計画	<p>第1回公開保育研修会事前調整 5月20日(金)～22日(日)</p> <p>第1回公開保育研修事業 6月21日(火) スラムの視察 22日(水) 公開保育研修保育内容についてシュミレーション、役割分担、準備。 23日(木)～26日(日) ・公開保育研修会、意見交流研修会を、保育園・幼稚園・図書館で実施する。6箇所。 27日(月) ・総括会議 ・次回打合せ ・テキスト整理</p>	<p>1 第1回公開保育研修事業事前調整(5月20日～22日) スタッフ2名派遣。</p> <p>2 第1回公開保育研修および意見交流研修会(6月21日～27日) 講師・スタッフ4名を派遣。 6月21日 講師・スタッフ4名でスラム視察等を実施。 6月22日 講師・スタッフ4名でオリエンテーション、公開保育シュミレーション、準備物の用意等を実施。 6月23日午前 プラサートシン保育園で公開保育研修を実施し、こども4～5歳 60人、保育者6人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者14人、当該保育園2人 園長1人が参加。 6月23日午後 クロムガン幼稚園で公開保育研修を実施し、5歳児 172人、保育者12人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者:13人、当該幼稚園:6人が参加。 6月24日午前 ワットターカム幼稚園公開保育研修を実施し、4歳児 110人、保育者:6人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者 22人、当該保育所:5人が参加。 6月25日午前 セータムクローマ二保育園公開保育研修を実施し、2歳～5歳親子28組が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者 25人、当該保育所:6人が参加。</p>	<p>バンコク公開保育研修会の成果と課題</p> <p>1. 公開保育受け入れと研修参加状況 公開保育研修会とはどのような研修なのかが口コミ・通信(教材開発研修センター)で広がり、実施を希望する園や参加希望者が増加し定着してきた。</p> <p>2. 運営の仕方 これまでの研修会では、日本の講師が研修会を主宰する形をとってきたが、その成果の上に立って、最終回(2月)の研修会の実施に当たってはシーカーアジア財団スタッフの講師力を示す場として運営方法を検討し、下記のように実施した。 ①研修会内容は、大阪の講師とシーカーアジア財団のスタッフとが対等に企画運営し実施する。 ・シーカーアジア財団は、大阪の講師の企画案を土台に各実施する施設の立地条件を考慮しながら研修会活動内容を検討する会議を重ねた。</p>

	<p>第2回公開保育 研修会事前調 整 12月21日(水) ～23日(金)</p> <p>第2回公開保育 研修会事業 2月14日(火) ・スラムの視察 15日(水) ・公開保育研修 保育内容につ いてシュミレー ション、役割分 担、 準備。 16日(木) ～19日(土) 公開保育研修 会、意見交流 研修会を、保 育 園・幼稚園・図 書館で実施す る。6箇所。 20日(日) パネルディスカ</p>	<p>6月25日午後 ラートパタナー保育園公開保育研修を実施し、2歳～小学生親子25組が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者28人、当該保育所2人が参加。</p> <p>6月26日午前 バーンテープ保育園公開保育研修を実施し、A活動に2歳～小学生親子15組、B活動に2歳～小学生親子14組が参加。意見交流研修会を実施し、外部保育者20人、当該保育所:5人が参加。</p> <p>6月27日 講師・スタッフ4名が総括会議、次回開催について協議、テキスト作成準備に参加。</p> <p>3 第2回公開保育研修事業事前調整(12月21日～23日) スタッフ2名派遣。</p> <p>4 第2回公開保育研修および意見交流研修会(2月14日～20日) 講師・スタッフ4名を派遣。</p> <p>2月14日 講師・スタッフ4名でスラム視察等を実施。</p> <p>2月15日 講師・スタッフ4名でオリエンテーション、公開保育シュミレーション、準備物の用意等を実施。</p> <p>2月16日午前 チュワパーン地区中保育園で公開保育研修を実施し、3～5歳55人、保育者3人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者23人、青年海外協力会スタッフ1人と通訳1人が参加。</p> <p>2月16日午後 障がい児のための財団で公開保育研修を実施し、3歳から13歳の子どもと保護者8組、(子ども8人・おとな9人)、施設スタッフ4人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者11人、青年海外協力会スタッフ1人と通訳1人が参加。</p>	<p>・シーカーアジア財団は同財団スタッフが担当する研修活動を立案し、検討を重ね、修正した内容を当会に提案した。</p> <p>これらのシーカーアジア財団からの提案を受けとめ、活動内容を確認した</p> <p>②研修会当日、大阪の講師とともに、シーカーアジア財団のスタッフを講師の一員として紹介して研修会を進めた。</p> <p>3. 現地スタッフのスキルアップ</p> <p>シーカーアジア財団スタッフの質をアピールする機会であることを意識し、1日かけての研修会内容の確認・シュミレーション活動を行った。</p> <p>シーカーアジア財団のスタッフが担当する活動内容には、学んだものをそのままではなくタイの文化・遊びにアレンジし作り上げた遊びが含まれ、応用する力・自ら遊びを工夫する力が身についたものとなっている。</p> <p>4. 研修事業の定着</p> <p>シーカーアジア財団からの研修会での運営方法として同財団スタッフを講師の一人として位置づけたいとの提案を受けて、スタッフの力量の到達度</p>
--	---	---	--

<p>セッションを実施する。</p> <p>21日(月)</p> <p>・総括会議</p> <p>・テキスト作成</p>	<p>2月17日午前 ガーリミー保育園で公開保育研修を実施し、3歳児47人、保育者4人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者14人が参加。</p> <p>2月17日午後 バーンソー保育園で公開保育研修を実施し、4・5歳23人、先生：4人が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者45人、当該保育園園長が参加。</p> <p>2月18日午前 パークポー寺幼稚園（小中併設幼稚園）公開保育研修を実施し、3歳・4歳・5歳各学年10組の親子＝計30組、先生：3人、校長・教頭が参加。意見交流研修会を実施し、外部見学者21人が参加。</p> <p>2月18日午後 バーンヤープレー区保育園公開保育研修を実施し、3歳・4歳・5歳各学年5組ずつ親子15組、保育者2人が参加。意見交流研修会を実施し、当該保育園運営委員3人、同地域保育園園長7人、外部見学者20人が参加。</p> <p>2月19日 講師・スタッフ4名が総括会議、テキスト作成準備に参加。</p> <p>パネルディスカッションの打ち合わせ)</p> <p>2月20日（10時～12時）</p> <p>講師・スタッフ4名がパネルディスカッション（テーマ＝子どもの育ちのために力を合わせよう～想像力をはぐくむ教材について考える～）に参加。</p> <p>パネルディスカッションに79人が参加。</p>	<p>を確認するとともに、これを今後いかに定着させていくかの支援の在り方が問われている。同財団はすでにこれまでの研修事業でのスタッフのスキルアップを受けて、参加した保育園などの要望を受けて、独自に研修会を開催しているが、その定着・継続のためには経費の確保の問題もあり、行政などの公的な機関などにその必要性をたらきかけ、研修の委託を受けるなどの手法も必要となっている。</p> <p>また、2月研修会最後のパネルディスカッションに予想以上に人が集まった。これは、4年間の研修会になかでアピールしてきた「遊びの大切さ」、「楽しさを共感・共有する」「親子が触れ合う快さを体感する」ことが重要だと保育者が実感定着してきたことの表れである。</p> <p>この参加者の実感をより高めていくには、4年間届けてきたメッセージを途切れることなく提供することが重要で、そのためにシーカーアジア財団・教材開発研修センターを大阪マイペンライとして今後も支えていかなければならない。</p>
--	--	---

5 配分項目別経費の使用状況

配分項目			①配分類 (実施計画書の承認に基づく)千円	②変更承認後の配分類	③実際の使用額	④差額(①-③ 又は②-③)
項目	品名	数量				
日本人専門家・スタッフ航空運賃		12往復	969		918,340	50,660
日本人専門家・スタッフ滞在費		46泊	138		144,000	-6,000
日本人専門家日当		52人日	156		102,000	54,000
日本人専門家・スタッフ現地交通費(車両燃料費)			36		36,778	-778
通訳人件費		18人日	16		14,396	1,604
資料作成費		75か所	81		73,285	7,715
現地スタッフ交通費(車両燃料費)			96		28,564	67,436
現地スタッフ人件費		168人日	101		86,688	14,312
研修資料作成費		40人×12か所	128		123,840	4,160
現地運営補助スタッフ人件費		10人日×12か所	72		59,340	12,660
研修施設利用料・設営費		12か所	98		92,880	5,120
公開保育教材費		12か所	319		272,334	46,666
子ども保育用おもちゃ購入費			134		124,998	9,002
研修保育絵本購入費		30冊×12か所	195		180,125	14,875

研修参考図書 購入費		12か 所	130		115,462	14,538
資料翻訳料		25枚	54		46,440	7,560
パネルディスカ ッション施設利 用料・設営費		1か所	13		11,610	1,390
保育テキスト 印刷費		500 冊	399		361,200	37,800
合 計			3135		2,792,280	342,720

注：「差額」の欄は、自己資金で負担した額か、返還を要する額となる。

6 配分事業の完了時期

平成24年3月31日

7 現地の人々の反響・意見

第1回公開保育研修事業の意見交流研修会で出された意見 プラサートシン保育園（6月23日午前中）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・2010年9月に公開保育を実施、1歳過ぎから4歳くらいまでと一緒に遊ぶことを楽しんだ。今日は新聞紙の遊びを見学し、今後保育園で生かしたい。
- ・今日の活動はいずれも子どもたちは楽しむであろうと見せていただいた。当保育園で公開保育を行うが、他の公開保育日には9人の保育士が分担で見学に来ている。それほど意義がある活動だと思っている。
- ・少人数しかいないクラスで他のクラスの子どもたちと遊ばず、一緒にいると緊張する。参考になる活動を学びに来た。
- ・遊びに協力的に楽しんでいる。日々子どもに教えているときには見られない顔を見せ遊んでいる。ありのままの子どもが見られた。保育士の研修に参加して子どもたちにとって良い活動だと思った。しかし、直接実践いただくことでより理解することができた。
- ・次の機会にはぜひわが園で実践してほしい。
- ・見学させていただきよかった。いろいろな活動はみな実践できる。
- ・からだを使った活動、音楽を活用した活動、それぞれが活用できる。
- ・今日の活動のコンセプトを確認したい。一つ目は子どもが楽しいと感じるよう努力をする。二つ目は子ども自身が自分で考える機会を大事にする。三つ目は音楽をうまく活用して子育てを支援する。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・こどもが楽しむことを一番の目的だと思っている。楽しむことで子どもは様々なことを身につける。紙を折る、2人で一つのものを作る。助け合う姿が見られた。パーボールも中に入ることを楽しんでいる。待っている子どもたちも次に自分たちが遊ぶということを理解して待っていた。
- ・楽しいと感じることとても重要。楽しかったら次もしたいという意欲、意欲を持って取り組み楽しかった、それが自信につながる。
- ・公開保育の効果はとても高い。実際に子どもの反応を、保育者のかかわりをじかに見る研修の意義は高いと実感した。これからはシーカーのスタッフで活動できるよう努力していきたい。

クロムガン幼稚園（6月23日（木）午後）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・昨年2月公開保育を実施した。1歳ごろから5歳までの子どもの活動だった。今日は5歳児の活動で大人数ではあるが、活動的で楽しい内容であったように思う。破る音、ほおり投げるなど楽しんで活動していた。
- ・親子活動を見学した。同年齢でしかも5歳児という年齢である中とても面白かった。活動的だし子どもが楽しんでいた。
- ・それぞれの活動で子どもの発達のどの部分を伸ばしているのか。新聞のボールを袋に入れる際、ボールに色がついていれば間違った袋に入れるとすぐわかる。色がついていない中、子どもに指摘ができない。
- ・1クラス40人強で4クラスの保育園。全員の活動をお願いしたものの楽しめないのではとても心配していた。新聞紙がゲームにまで発展し、また子どもたち自身が待つという行動ができることに

驚いた。ペットボトルを紙のボールで当てるゲームの際、少し混乱した。もっと混乱した場合どう対応すればいいのか

・一人一人が楽しんでいることがよくわかった。育っている力も気が付いた。考える力、待つ力など。スタッフ・講師等からのコメント

・多人数でどう遊んだら子どもは楽しめるのかと悩んできた。子どもたちの遊びに対しての興味の方に助けられ、楽しく活動できたのではと思っている。子どもが楽しむことにこだわりたいと活動し、その事が子供の力に結び付くと考えている。

・子どもの気持ちと育つ力はとても関係がある。走りなさいと言われ走ると、好きなものをとるために走るのでは同じ走るという活動でも全然異なる。子どもが楽しむことで、次の活動への意欲が育つ、そして活動することで様々な体験を楽しみ、それが自信につながる。

身の回りのものが子どもにとって大事な教材だと考えている。おうちで読む新聞が、お風呂になって遊べる、ボールになる、ゲームの材料になる。いろいろなものに変化する。身の回りの物をその用途だけでなく、どのように工夫すればおもちゃになるのかという工夫する力、一つの用途にしか考えられないのではなく、様々なものを多様に、多様なものとして認識する土台になる。おもちゃは、高価なおもちゃ屋さんにあるのではなく、身の回りにみんなで工夫することでいっぱい埋められている。

ワットターカム幼稚園 6月24日午前での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・初めて見た活動が多く、とても参考になった。パーボールンへの子どもの喜び・楽しさの表情が印象的。
- ・大人数で子どもの興味が外れると、スタッフがうまく誘導しているのが印象的。
- ・4歳児で大人数で、知らない人が多く、注意散漫の子どもが多いように思った。

今日の活動を全体見て、子どもが楽しいと感じる活動を行うには先生のエネルギーが多量に必要。先生は疲れる。今日の子どもが楽しんだ活動を取り入れるか否かは、先生しだい。

- ・以前紙をちぎる活動をしたが、うまくちぎれなかった。準備不足だったようだ。新聞をちぎるのを見せる。大きい音や小さい音がするのも気づく。ちぎったものでみんなで遊ぶ。そしてボールをつくり、それが次のゲームの材料に。遊びが連続している。小さいボールを作って子ども同士が互いに作ったものを見せ合っている姿が素晴らしかった。
- ・子どものことがよくわかる活動。子どもにとって関心が高いことをいっぱい行っている。初めは混乱していたが、あとは遊びの楽しさをわかって待てるようになった。好きな活動をすることへの信頼感からだろう。これまでの研修に参加し多くを学習したが、子どもの実践にはつながっていなかった。それが今日の活動を見学することでつながった。
- ・子どもの握力が弱いと訴える親に、今日のボールつくりのあそびなどを紹介したい。
- ・すべて素晴らしい活動。だが、子どもたちがぶつかり合う姿が見られた。安全に配慮する指示が必要。また、ぶつかり合った時など、ごめんなさいと言わせるなどケンカ時の対応が必要。多人数の子どもで、スタッフが少なすぎるのではないか。多人数でするには無理がある活動。
- ・危ないとは思わない。安全面を考えすぎると子どもの主体的行動を奪うことにもつながる。
- ・入園して1か月、どうなることやらと心配したが、心配していたよりよく遊んでいた。安全面のご意見は今後に生かしていきたい。公開保育という初めての体験、とても学ばせていただいた。

- ・遊びの組み立て方がとてもよかった。チームごとに遊んでいたが、もっとチームリーダーの役割を明確にしたほうがよかったのでは。大事なものを遊びに取り入れることについて子どもにその押さえが必要。新聞紙のインク有害、後の手洗いが必要。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・たくさんの方のしかも4歳児。悩んだが楽しい時間をいっしょに過ごそうと活動を計画した。知らない人や言葉の通じない人の誘導で混乱していたこともあったが、遊びへの関心の高さから、待つ姿が見られ、みんなで一緒に活動するができたと思う。

- ・袋にボールを片付ける際、確かに子どもが殺到し折り重なるという姿を生じさせた。あれは、もっと袋を出せば解決することで配慮が足らなかったと思う。しかし、折り重なってもだれも泣かなかった。それはどの子どもも遊びたい、活動したいという思いが強かったからで、すごく驚いた。

ケンカの対応は重要。しかし、いつも状況を聞いて、話し合わせる・謝るといふかかわりが必要とはいえない。遊びの中で起こり、互いがそれを意識することなく遊びへの興味が強い場合は、そのままにしておくことも大事なかかわりだと思います。

セータムクローマ二保育園（6月25日午前）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・2月の公開保育研修に参加したが、親子活動は初めて見た。子どもの表情が素敵。保護者の緊張が徐々にほぐれ、最後には本当に楽しんでいた。親子がふれあい遊んでいるのが素晴らしい。
- ・保護者や子どもがとても楽しんで、バスに乗ってはバスから身を乗り出し楽しんでいた。このような活動が親子のきずなを深めると実感し、すべての活動に感銘を受けた。新聞紙から次々連続性の遊びが素晴らしい。
- ・職員28人が順番に研修に参加している。感動した。親と子どもの表情が徐々に変わっていくことがよくわかった。はじめぎこちなかった親と子の触れ合いが徐々にうれしさに変わる。だれでも遊べるもの、「ヤクルト」など日常使っているものがおもちゃになるのがいい。新聞紙のインクは有害ではないのか。
- ・連続性の遊び素晴らしい。すべてが簡単にできるものだが、これをどう応用するのか。講師の方に一つ一つに狙いを教えてほしい。
- ・障害のあるわが子も活動に参加した。身体的な活動は参加できないこともあったが、他は喜んで参加していた。片づけも遊びの中で行っていることが印象深い。
- ・親子の活動素晴らしい。保育園に求められている内容。母の日・父の日などイベントに活用したい。
- ・活動に連続性がある。日本の新聞有害とは思えない。ヤクルトなど日常使うもので家と保育所をつなぐ。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・親と子が触れ合うこと少ないなか、何かを作る・からだを触れ合う活動を行う中で親子が密着する快さを感じてほしい。親と子が緊張している姿から、徐々にほぐれ、笑顔・笑い声に。
- ・小さい時から親子の信頼関係を結ぶこととても重要。友達・遊びにも影響・保育者の積極性ととても重要。
- ・日本ではなぜ親子活動を大切に取り組んでいるのか。子育て・子育て環境の変化、子育ての伝承がされにくく、子育て不安や負担感が高い。

タイでも忙しさのなか、親子が触れ合うことが少ないと聞き、日本の活動がニーズに合うと紹介

している。廃材を活用した手作りおもちゃの重要性。お家にある新聞がおもちゃに変わる、ゲームができる。そのものの活用方法が多様になりうる。工夫する力を養うことにつながる。

ラートパタナー保育園（6月25日午後）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・とても楽しかった。いろいろな年齢が楽しめる活動だった。子どもがほっこり心温かくなる時間が持てた。
- ・感動的だった。保護者の子どもへのかかわりが素晴らしい。はじめ緊張していた保護者が徐々にほぐれ、楽しんでいる様子がよく見てとれた。一緒に活動したかった。次回活動に入らせてほしい。
- ・年齢別の活動をしてもらうとありがたい。子どもの年齢と活動・ねらいが明確になるので。父親と子どもだけの活動もあってほしい。
- ・参加者への講師の心配りがよくわかった。素晴らしい。
- ・保護者にとって、とても素晴らしいひと時だった。
- ・保育者だけの研修会を開催してほしい。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・親子より楽しそうな姿を出すことで子どもの気持ちを引っ張っていききたい。保育者は子どもに負けない元気と笑顔が必要。先生と遊ぶと楽しいというイメージを持ってもらうことが大切。年齢に合った遊びというより、子どもの興味に沿った遊びと捉えている。
- ・親子の楽しむ姿が印象的。父親の参加も多く、子どもの笑顔が素晴らしかった。
- ・参加したいと思うほど楽しかった。
- ・活動に見学者が入りたいという意見があった。親子活動にみなさんのような保育者が入ると親は活動しなくなる。子ども集団の場にも、知らない人が多い中、それ以上に増えると子どもはより緊張する。

2008年2009年は保育者対象の研修会、2010年から公開保育研修会を実施してきた。今後はシーカーアジア財団のスタッフが公開保育研修・保育者対象研修を実施するので依頼してほしい。

年齢別の活動・ねらいが先にあるのではなく、子どもが興味を持っている活動にこどもの育ちに合わせた次のねらいを持つことが重要。同年齢の活動で行ってほしいと意見があったが、同年齢でも一人ひとりの姿は少しずつ違うので個別なねらいがある。異年齢の活動は、年齢の発達に大きな幅があるので、その育ちに沿ったねらいをもつことが必要だし、幅がある分難しい。

「よろしくね」の活動、1歳前後の子どもでもリズムにからだを乗せて楽しむとねらいを定めることができるし、4歳・5歳でもリズムとことばに合わせてからだを動かす、友達とからだの動きを合わせるといふねらいを持つことができるのです。年齢による活動があるのでなく、同じ活動でもさまざまな年齢のねらいを定めて活動できるのです。

バーンテープ保育園（6月26日午前）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・昨日とよく似た内容であったが、会場の狭さから2か所に分かれて実施がよかったと思う
- ・年齢別に分かれた活動をするのかと思ったが、会場の関係から二つに分かれての活動だった。「あたま・かた・ひざ・ボン」はリズムに乗って遊ぶ活動でとてもよかった。紙トンボの活動で子どもの分を親がしてしまっていた。そんな時の助言はどうしたらいいか？新聞紙でボールを作り、走り玉入れの際、そこに入れたくない、持っておきたい子どもがいた。どう対応すればよいのか？

- ・全部楽しかった。異年齢の活動だったのでざわつきがあったように思った。
- ・当保育園で研修の日を迎えることができ感激している。忙しい親の生活、子どもと親の触れ合いをどうしたらいいかと悩んできた。今日の親子のうれしそうな顔を見て、この時間がどれほど親子にとって幸せなひとときであったかが感じられた。狭い施設に見学に来ていただき、感謝している。
- ・昨日見学させていただいたが、手作りおもちゃが違う。どこの家にもあるものを活用しての教材づくり、とても素晴らしい。8人の職員が、すべての公開保育研修に参加し、学んだことを8人でシェアし合うことでたくさんの活動を互いに学ぶことができた。ワットターカムとクローニングムでは大人数での活動だったが、当保育園でも応用できるものばかり。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・子どもだけの参加もあり、子ども同士で友達を膝に乗せたり、なべなべそこぬけととても楽しんで活動していた。お家でも楽しめる活動であったと思う。廃材などを活用することで家と保育所の活動がつながる。
- ・先生が布に乗ってみんなでゆらした時、親子がとてもいい顔していた。園長先生のまなざしや自然を取り入れている保育環境（ペットボトルで植物を栽培し、保育園の壁などさまざまのところにしている）など素晴らしかった。
- ・親が楽しいと思うと子どもはとてもうれしい。今日は親子ともが楽しかったと思う。親子での共同作業の時、親がしてしまうのはよくあること。少し助言してあげることも必要。
- ・年齢だからざわついているのではないと思う。今日の子どもたちは保護者と一緒にうれしい。興味いっぱい楽しい活動で喜びがいっぱいの姿とらえている。

教材って、高いもの・棚に飾っておくものではなく、おうちで必要なくなったものを活用するとおもちゃになるという教材もある。工夫する力、多様性を学ぶ機会であるとともに、お家と保育所を繋ぐものでもある。

忙しさの中で、子どもの保育所での活動に興味を持てなかった親が、捨てようとしたペットボトルを子どもに言われ、洗って保育所に持ってくる。ある日迎えに行くとそれがおもちゃになっていた。それから、家の廃材を保育所に持っていく親になったという話は、よく大阪の保育所から聞きます。お家と親と保育所・子どもをつなぐ活動でもある

第2回公開保育研修事業の意見交流研修会で出された意見

チュワパーン地区中保育園（16日午前）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・「色鬼」の遊びは危なかった。トンネルの活動はすべての体を使って活動できる活動だと思った。
- ・「色鬼」は部屋が狭くて危なそうだったけれど、私の園ではもっと狭いが、危なくないようにするにはどうすればよいかをみんなで考え、いろいろな活動を実践している。マジックを活動していたが、シンナーの問題、服や体に色がつく問題から、チョーク・クレヨンで活動しているが、このことについてはどうか
- ・今日の活動、みんな面白い。「色鬼」は、床が柔らかいのでそんなに危ないとは思わなかったが、人数を分けてもよかったのではと思う。マジックは、ふさわしくないと思う。「色鬼」は色より形を教えるゲームのほうがよかったのでは
- ・トンネルの活動はビニールにもっと工夫をされてもよかったのでは、想像力を持たせるように配慮

したほうがよいと思う。「色鬼」はお話し仕立てのゲームにしてはどうか

- ・作ったこま、それで風車になるのか・

スタッフ・講師等からのコメント

- ・トンネルの活動はいろいろ工夫できる活動である。透明のところの不透明なものを貼る。黒色にトンネルをするなど。今日は一つの活動を紹介したので、あとは、それぞれの保育園の環境・子どもの状況に合わせて工夫されるとよいと思います。
- ・マジックの件は確かにシンナーの問題から換気が十分であること、服装や使い方の注意もいると思う。私たちは、それらに配慮しつつ、よく使っています。マジックを使うのは子どもの筆圧が弱くても、しっかり色がつく良さからです。
- ・「色鬼」は危なくないよう昨日も検討を重ねてきた。今日も子どもたちの状況を見て、一緒に遊ぶことおこなった。確かに色の囲いに逃げ込むところで重なってこけたりしていたが、スタッフが柱の周辺に立ったり、こけた子どもたちをフォローしていた。
- ・初めて出会う人たちでしかも言葉も通じない人たちとの遊びに興味津々で、意欲いっぱいに関わってくれた子どもの力に感謝したいと思います。保育者は、子どもが何に興味を持っているのかを常に探り、興味に合った活動をどう提供できるか、楽しさを共感できるかが大事だと思っています。子どもは、大好きな活動を楽しんで自信を持ち、また次にやりたいと意欲を高めます。そうすることで力をつけていくのです。

無理やりやらせる活動では、子ども自身に力を積み上げることはできないのです。今日の活動は、あくまで一つの活動であり、それぞれの保育園の環境に即して工夫することが重要だと思います。

障がい児のための財団（16日午後）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・新しい活動をたくさん知ることが出きれうれしい。転居してきたところで、今日初めての施設訪問です。
- ・うれしい活動でした。「ビヨーンビヨーンマン」は、家にあるビニールで簡単に作れる活動。身近にあるもので遊べるということ、発想の転換でした。
- ・子どもたちも参加でき、それも楽しんでいることがとてもよかった
- ・障害児に活動を提供してくださったことに感謝。障害児の親であることで子の活動に出会えたことがうれしい。廃材を使った活動がよかった。彼はビニール袋が好きですが、そのビニール袋が今日は人形になった。価値が上がったようだ。
- ・子どもたちがどのように活動するのか興味を持って参加した。廃材を使ったおもちゃに興味を示し意欲的に活動している子どもの姿・表情が印象的。
- ・親子で一緒に作る・ふれあい遊ぶ、保護者もとても楽しそう。
- ・体調不良等で欠席があったが、8組の親子が参加して楽しい活動になったこととてもよかった。子どもや親の楽しむ表情や意欲的に行動しようとする姿が一番素晴らしかった。
- ・興味を持ち、やってみたいという気持ちが子どもの行動を生み出す。子どもの意欲がさまざまな力をつくりだす。親子がともに楽しみ一緒に一つのおもちゃを作り出す活動がとてもよかった。
- ・以前、シーカーアジア財団の公開保育研修会（障害児施設での公開保育）に参加し、子どもたちの楽しんで遊ぶ姿を見てわが園でも実施できたらと考えた。そしてこの間、われわれの不安を受け止め、細やかに調整いただき今日の実現となった。調整していただいたシーカーアジア財団に感謝し

ます。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・子どもたちが楽しんでくれるかとても不安だったが、思った以上に子どもたちが意欲的に活動し、楽しく過ごせる時間となったことに感謝している。私は専門家ではないが、障がい児と17年間かかわりを持ってきたなかで、子どもが快く遊べる活動を今日用意しました。ビニール袋の人形・大きなトテンポールのような袋にびっくりしながらも興味を持ち、触ろう・つかもう・乗ろうと積極的に活動する子どもたちが素晴らしいと思いました。
- ・絵本が好きという情報を得て、文字のない「ぞうのボタン」を選びました。子どもたちが興味を持って見つめてくれ、よかったです。
- ・身の回りのあるものを活用しておもちゃを作る活動は大阪で盛んに行われています。一つの使い方だけでなくいろいろなものに活用できることを知ることは、子どもの工夫する力、多様な考え方をする力につながっていくと思います（物を入れるビニール袋が、人形、巨大な人形になる）。

保護者は、家庭で出る廃材が子どもたちの活動に必要なものだということを知ること、その材料を子どもの活動現場に届けるなど、家庭と日中の子どもの活動現場をつなぐ意義もあります。子どもは興味を持ったことに対して意欲的に活動します。「○○させる」という活動で力を高めるのではなく、子どもの興味を持つものを提供することで行動意欲を高める、活動が楽しかったと感じるともっとやりたいと次の行動意欲につながっていく。これらは子どもの育つ力につながると、思っています。障がい児、健常児ともに重要で、子どもの育ちを支えるのにとっても重要だと感じています。

ガーリミー保育園（17日午前）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・こま遊びでは、普段友達とかかわれない、遊びをしようとしないうちで子どもがこまを回そうとしており驚いた。シャボン玉はとても盛り上がり、そんなうれしいのかとびっくり。
- ・おとなしく、しっかりしている子どもたちであった。ペットボトルでのシャボン玉、泡を吸い込む子どもたちが多くそれらへの配慮がほしかった。
- ・外に出ることを提案した時の子どもの歓声に驚いた。外へ出ることで喜ぶなんて。活動にシャボン玉という発想持っていなかった。こんな簡単な活動で生き生きと活動する子どもにびっくり。
- ・初めに紹介してもらった手品。パンが入っていた袋・焼き鳥の串、身の回りにあるものが子どもの興味を引く活動につながるということがわかった。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・今日の活動のねらいは、身近なもので簡単におもちゃを作る、まわる楽しさやまわるための工夫をする。少し回す活動が難しかったかも。

シャボン玉は、できた泡を楽しむ（ふわふわと飛ぶ泡・いろ・消える）、吹くことで泡ができる不思議、どうしたらうまく泡ができるかを工夫する。泡が口についてしまった子どもがいたという意見があった。泡が口につくといやな味がした、ぬるぬるした。だからつかないようにどうしたらいいか、吸わないよう工夫するということを子どもは学ぶ。子どもは遊びながらいろいろなことを学んでいく。その姿から我々も学んでいく。

- ・しっぽとり、理解しきれていない子ども、遊びたくない子ども、無理に引き込むのではなく、遊びを見る・見守ることでの参加もある。

- ・子どもの興味を持つ活動を提供する努力をする。今回もどうしたら子どもが楽しめるかを考えてきたが、シャボン玉液を気持ち悪がって手を洗う子どもが多く出て、その姿になるほどと学ばされた。子どもとの活動は、大人が学ぶ活動である
- ・大阪の保育園で 11 年目の保育士です。遊びは生きる力につながると感じている。遊びの中で子どもを感じる、楽しい・悔しい・腹が立つ・悲しいなどなど、いろいろな思いが生きる力につながっていく。子どもが「いや」といえる環境を作りたいと思っている。子どもたちの家庭環境はとても厳しく、なかなか「いや」を受け止めてもらえない。だからこそ受け止める環境を作りたい。

バーンスー保育園（17日午後）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・「氷鬼」の凍り方はなんでも OK ですか。いろいろなゲームをしていただいた。子どもの発達を促す 4 つの領域がすべて含まれており素晴らしい。
- ・ゲームそれぞれのねらいと子どもへの効果を教えてほしい。「忍者」は脳への刺激が大きいと思う。
- ・いろいろなゲーム社会性を養うしとてもよかった。
- ・子どもの様子を見守っているととても楽しそうで、新しいゲームを教えてもらいとても良かった。日本の歌も教えていただきたい。「氷鬼」の人数はどれくらいが適当か。
- ・「氷鬼」の鬼はとてもかわいらしいお面、もっと怖い顔にすると迫力が出るのでは。各現場での工夫が重要で、工夫次第でいろいろと楽しめる。
- ・ルールがわからない子どもがいた。もっとルール説明をしたらいいのではないか。ルールを守らない子どもには罰ゲームを課すとよく守るようになる。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・道具を使わないで遊ぶ活動、だれでもどこでも遊べる活動、からだを動かしてあそぶ活動を紹介しました。遊びはいろいろな育つ力を養います。次は何して遊ぶのかと、遊びの楽しさを知っている子どもは、お話の説明を聞こうとし、そして考える力も養います。

ルールがわかっていない子どもが…というお話がありました。ルールは繰り返し遊ぶことで学んでいく。楽しく遊ぶにはルールを守ることが重要だったり、守ることで楽しく友達で遊べることを繰り返し遊ぶなかで子どもは学びます。「氷鬼」の凍り方はいろいろ工夫したらいいと思います。

- ・ルールを守らせるために罰を…という話があったが、確かに従来のタイの教育はそのような内容が主流であった。が、そうではなく、楽しいからもっとしたい、ルールを守りたいということが重要だと学び考えてきた。大阪マイペンライとの研修会でもそれらをメッセージとして送り、多くの先生方と共感を得てきた。シーカーアジア財団の教材開発研修センターは、先生方が悩んだりした時に参考になるような教材を置いたり、一緒に考え作ろうと努力してきている。それらマンパワーを高めることが重要だと思う。教材開発研修センターには、絵本や教材を設置し、貸し出しも行い、会員同士のネットワークを作っていこうと通信も発行している。

※タイのテレビ局が、6月頃に（シーカーアジア財団活動を30分くらいの特集で報道するため取材に来ていた。活動のすべてとシーカーアジア財団の事務局次長や藤田講師の取材も行った。

パークポー寺幼稚園（小中併設幼稚園）（18日午前）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・日頃、保護者とこどものかかわりが少なく、ゆったりとかかわってもらっていない。今日の活動での親子の様子をみて、一緒に過ごす喜びを感じている姿にとっても喜びを感じた。学校で行う活動と

して今後検討したい。

- ・廃材を活用することとてもよいと思う。身近にあるものが新しく生まれ変わることがとてもよい。家庭でテレビを見ている子どもが多いが、どれくらいの時間ならOKなのか教えてほしい。
- ・見学者：午前中子ども達はさまざまな活動をし、午後はテレビ・ビデオ・音楽鑑賞などを行っている
- ・保育園でテレビを使うのは、テレビに子どもをお守りさせていることだ。それではだめと言ってもなかなかそれを変えていくのは、職員体制などさまざまな問題があり難しい。でもテレビに頼らないようする努力が必要。
- ・おもしろい活動、子どもと親が楽しんでいるのがよくわかった。
- ・以前私の保育園で子どもの活動の公開保育を行った。とても楽しい活動だった。いずれも活用できる活動ばかりで、それ以降子どもたちがやりたい活動としてみんなで楽しんでいる。
- ・土曜日で仕事が休みの今日、それでも参加する意義のある研修会でした。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・今日の活動のねらいは親子で触れあうことの楽しさを共有するということでした。徐々にリラックスされ、笑顔がいっぱいあふれ狙いが達成できたと思います。おもちゃや・教材を使わずすぐ遊べる活動を選びました。おじいちゃんの感想に、おとな・先生・子どもの関係を意識することなく遊べて楽しかったという意見があった。それをとてもうれしく思いました。
- ・身のまわりの物でおもちゃを作ること、子どもにとってとても楽しい活動。紹介したのは一つだが、いろいろなものがある。工夫してほしい。
- ・テレビの見る時間についての質問があった。保育園・幼稚園にはテレビはほとんどない。家庭でテレビが子守りをしている状態はあり、保護者とともに考えあっている。テレビを親子で見ることが重要で、共感する・おもしろさを共有する時間にすればよい。長さより、味方だと思う。
- ・日本でも親子の触れ合いが薄れていること、子育ての不安が高まっていることが大きな社会問題になっています。それらの現状から、保育園・幼稚園で親子が楽しむ活動を取り入れたり、地域で親子が集い子育てを伝えあうつながり作りをする活動も盛んにおこなわれています。タイと日本の課題は重なり合っています。シーカーを通じて一緒に考えあえたらと思います。

バーンヤープレー区保育園（18日午後）での意見交流研修会

参加者から出された意見

- ・この地域に7か所の保育園があり、第1保育園の園長です。初めて研修会に参加した。今まで参加した先生方に聞いていた。評価できる内容でした。親子が触れ合う機会が少ないタイの現状にとって、親子と一緒に活動する楽しさを共有する機会を作ることとても大事。国としても取り組まなければならない内容だと思います。日本とシーカーアジア財団で真剣に良い活動にしようとする努力を感じ感激した。
- ・見ているだけで心があつたまる楽しい活動でした。
- ・親子の距離を身近くする活動だ。我が園でもやりたい。次回はぜひ我が園で実施してほしい。
- ・前はベー先生の園で研修会に参加した。今回も素晴らしい。かざぐるまは全部紙で作ってあり、安全で身の回りにたくさん材料がある。すもうくん、身のまわりにあるビニール袋で作っている、簡単なことなのに、発想が素晴らしい。発想を転換する機会になった。
- ・教材が重要だと思っている。教材として売っているものはとても高く、子ども一人ひとりに提供できない。身のまわりに教材がたくさんあることを学んだ。素晴らしい。

- ・素晴らしい活動だった。今後も続けてほしい。保育士対象の研修会を実施しようと思っている。シーカーアジア財団に協力をお願いしたい。
- ・シーカーアジア財団の研修会にずーと参加している。そして地域の保育園に広げている。
- ・シーカーアジア財団所属の保育園なので直接さまざまに影響を受けてきた。学んだことの大きな一つは、一人ひとりの子どもを大切にすることです。

スタッフ・講師等からのコメント

- ・親子で家庭でも楽しめる活動をと「風車」を選びました。みんなで楽しむのは「トーテンポール」です。
- ・触れ合う楽しさ、楽しみながら触れ合える活動としてみんなが大好きな「パータンコウ」作りを考えました。日本でする「胡瓜もみ」から工夫して考えました。とても楽しく活動できたと思います。
- ・地域の先生方が参加し素晴らしいかった。4年間の研修としては終わりますが、シーカーアジア財団との協力関係はこれからも続きますので、シーカーアジア財団を通してみなさん方とも協力関係が結べられればと思います。

パネルディスカッション

「テーマ=子どもの育ちのために力を合わせよう～想像力をはぐくむ教材について考える～」

パネラー：ニック さん（マーシー財団社会福祉士）

ガイ さん（障害児生活施設・土日子どもかかわりボランティア）

ブック さん（シーカーアジア財団事務局次長）

松尾純代 （大阪マイペンライ事務局次長）

ファシリテーター：ジョウ さん（アートセラピー活動家）

アルニー事務局長によりディスカッションの内容について

- ・タイ社会・スラムの子どもたちの生活背景は厳しく、子どもたちの課題は大きい。シーカーアジア財団として子どもたちへの育ちの支援を行うなかで実感してきた。これらについて一緒に考える機会の重要性を認識し、ボランティア貯金とマイペンライの支援をいただき取り組むことができ、大きな成果を得たことについて感謝したい。今後の教材開発研修センターについて皆さんのご意見をいただき今後とも積極的に取り組んでいきたい。

ジョウ：パネラーの紹介

ジョウ：アルニーさんのお話にもありましたが、経済発展してつづけていますが、子どもの心の育ちにマイナス面が表れてきており、家庭での親子のかかわりの減少が要因といわれています。携帯電話があふれ、インターネットなど情報が蔓延しており子どもの時間が奪われています。これらのこととシーカーアジア財団の活動は、教材開発研修センターの設立は大きくかかわっているのではと感じています。

教材開発研修センターを設立した意義についてポップさんからお願いします。

ブック：ジョウさんのお話にもありましたが、現代のタイ社会の課題は子どもの子育て事情にも大きく影響を与えています。経済格差の問題も大きくありますが、富裕層においても子どもの育ちの課題は深刻です。

この10年教育の質が落ちていることはデータでも明らかです。教育行政は義務教育の間、教育の無償を掲げているが、ハード面がと整えられても課題解決にはつながらない。

教育現場に子どもの自由・選択が保障されていないなど子どもの主体が発揮されていないなどソフト面の改革が必要なのです。

私たちは、スラムや少数民族の子供たちの支援に取り組んできました。そこで子どもにかかわる教師は、教師になるための養成期間も短く、彼らにアイデアを提供する勉強する機会もないのが現状です。そこで教材開発研修センターの必要性を実感したのです。

ジョウ：大阪マイペンライとしてシーカーアジア財団との協力関係をどのように築き、教材開発研修センターの設立・4年間の研修の実施がされてきたのですか？

松尾：マイノリティの子どもたちの育ちを豊かにしていきたいと願う保育者・教師・市民の組織が加盟する NGO グループです。絵本の提供・奨学金提供・相互交流を 1993 年から進め、われわれ自身も多くのことを学んできました。

タイスタッフが大阪に来るたびに、子どもと保育者の関係・身近なものでおもちゃを作る・楽しんで活動している子どもの姿に驚いている姿がありました。15 周年記念事業としてシーカーアジア財団と相談する中で、上記のことが互いに話題となり実施しようと考えたのです。まず戦線が楽しむ活動を実感することを目的に 2 年間・バンコクとターク県で先生対象の研修会を実施しました。先生方からの評価は高かったのですが、いざこれらをどう子どもたちに提供すればいいかわからないとのご意見を得て、公開保育（出前）保育事業の実施となったのです。

ジョウ：では実際研修に参加してこられたお二人のご意見をいただきましょう。

ガイ：シーカーアジア財団の研修会にずーと参加。2010 年障害児施設にボランティアグループの仲間とともに土日訪問する活動を続けてきた。その施設で出前保育を実施していただいた。保育者向け研修会で新聞紙で思い切り遊び、楽しかったことが忘れられない体験となった。そしてその時の講師から、この楽しかったことを子どもと共有することがとても大切とお話になったことが印象に残っている。

自分の考えの枠にとらわれている自分に気づき。新しいアイデアを受けとめる、新たなことに挑戦しようという勇気を得た。親に代わって障害児とかかわるボランティア、子どもが楽しいと感じられるようなアイデアを考え、かかわれるようになってきた。

ニック：皆さんと同じ立場の代表としてここにいます。長年スラムの保育所で勤めてきました。昨年出前保育の後、ずーとその遊びを楽しむ子どもたちの姿がありました。楽しいと感じた活動はこんな風に子どもを夢中にさせるんだと学びました。

パーボールン活動は、昨年紹介してもらいました。シーカーで売っていることを知りましたが 3000 バーツでは高くて買えない。それじゃシートで代用しようと思いました。これも大阪から学んだことです。

マーシー財団は 32 か所の保育園を運営しています。研修会で学んだことを関係園に広げています。

大阪から学んだことの一つ、子どもは楽しんで学ぶことが大切ということです。私たちは学んだことを生かそうとしますが、子どもの興味が薄れ遊ぼうとしなかったり、遊びに入らない子どもが出ると子どもが楽しむための遊びの工夫をしなくて立ったりします。もっと自らのかかわりや遊びを振り返り、努力をしなければなりません。

ジョウ：教材開発研修センターの今度で期待すること、こうあってほしいことなど、教えてください

ニック：教材とはただの手段・ものです。それを生かすのは先生の質・力です。その先生のやる気や質を高めるためのセンターであってほしい

ブック：自分たちは提供するだけのセンターではありません。皆さんのニーズを受け止めともに育っていきたいのです。保育者個人だけでは質のアップは難しいもので、保育者のネットワークが必要です。そのネットワークの核にセンターはなっていきたいのです。

皆さんの代表にセンター運営委員になっていただき、センター活動の構築を目指したいと思っています。

ジョウ：国内で保育者のネットワークを作っていくことの重要性が出されました。

松尾：保育所・幼稚園の活動を行うとき、うまくいかないとき子どもが悪い、親が悪いと子どもや親に責任が転嫁されることがよくあります。それは保育者の逃げです。

様々な悩みや活動の工夫をセンターに寄せてください。一人で考えるには限界があります。みんなで考えあいましょう。4年間の研修事業は終了しますが、大阪マイペンライはずーとシーカーアジア財団と交流していきます。タイと大阪は同じ子どもの課題を抱えています。ともに考えあっていきましょう。

ジョウ：会場からもご参加ください

NGO 子どもたちの活動：シーカーアジア財団として講師派遣は可能ですか。

ブック：派遣させていただきます。調整する時間が必要ですので早めに連絡ください。

大学教授：教材の中でどれが一番良かったです。

ジョウ：ものではなく、発想の転換するアイデアだと思います。

ニック：すべて楽しかった。子どもと共感すること、共有すること、それが子どもの育ちにつながる

スワンプルー保育園：遊びに入らない子どもがいた。わからないんだと思っていたら、その後の活動で入らず見て、参加していたんだと気付いた。子どもの内面を見ることの大事さを感じた。

11:30

ジョウ：教材とはものではなく、それをどう使うかの人であること。子どもの気持ちを共感できているか、自らを振り返ることが重要であることなど、いろいろなことを感じたパネルディスカッションになった。

教材開発研修センターに様々にかかわっていただき、保育者のネットワークを作りたがいに育ちあっていきたいと思います。

8 監査結果記載欄

「平成22年度国際ボランティア貯金寄附金に係る実施計画書」に記載の監査役（監査担当者）が、事業内容及び会計報告内容について内部監査を行い、以下の欄に署名（自筆）及び押印してください。

上記の記載事項及び会計書類を監査したところ、援助事業の実施結果は正しく記載されており、また、配分金の適正な使用と添付の会計書類に不備がないことを確認した。

監査 年 月 日

監査役氏名（自筆署名） 印

監査役氏名（自筆署名） 印

【記入上の注意等】

- 1 記4の配分事業の実施状況及び効果は、配分事業の着手から完了までの実施経過、事業の効果（反省点も含む）等を具体的に記入してください。
- 2 記5の配分項目別経費の使用状況は、承認された実施計画書の「配分項目」に基づき、派遣人数や雇用人数、期間等も括弧書きするなどし、漏れなく記入してください。
また、会計帳簿（写）、領収証、両替票、航空券控（ \circ チケット控）及び搭乗半券など支出額を証明する資料をすべて添付してください。
なお、領収証、両替票、航空券控（ \circ チケット控）及び搭乗半券など支出額を証明する資料については、原本を添付してください。
- 3 記7の現地の人々の反響・意見は、現地の人々の率直な意見等を記入してください。
また、写真等で現地の状況が分かるものを添付してください。特に、配分金で建設した施設、供与した資機材及び作成した教材は、すべて写真を添付してください。